芸術部会

研究主題　「生徒一人一人の心を育てる芸術の指導と評価」

Ⅰ　研究主題設定の理由

1　心を育てる教育の必要性について

学習指導要領の「芸術」目標には『生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる』とあり、また教育課程審議会答申には『美しいものや自然に感動する心』を育成することの必要性が示されているように、芸術の指導においては生徒一人一人の心の作用に着目することにより、心情を育てることが不可欠である。

しかし、心とはどのようなものだろうか。辞書には「心とは人間の精神作用のもとになるもの」とあり、その意味する範囲は広い。単に「心を育てる」といっても、生徒の何をどう育てればよいのか不明確である。

そこで本研究では、芸術科における心の育成について以下のように評価と関連付けたステップとしてとらえ、各科目における具体的な実践研究の基盤とした。

2　心の育成段階に応じた評価と指導のステップ

(1)　芸術科における心の育成に係る段階的なプロセス

段階	プ　ロ　セ　ス	予想される生徒の反応、状況等
Ⅰ	美を感じ取り、認識し、感動する。	「すごい」「へえー」「何て美しいのだろう」「何てすばらしいのだろう」
Ⅱ	表現したいと思う意欲、気持ちを発揮する。	「やってみたい」「つくってみたい」「どうやったらできるのだろう」
Ⅲ	表現のための技能を習得し、知識を得るために工夫する。	「こうすればいいのか？」「これをやればいいんだ」「これを知ればいいんだ」
Ⅳ	創造的に表現し、達成感、成就感を味わい自己評価する。	「できた」「やった」「これでいいだろうか」「もっとこうすればよかった」

（＊この四つのプロセスは循環し、Ⅳからより一段と美を認識する力が高まった段階のⅠに戻る。）

(2)　芸術科における心の育成の段階（Ⅰ～Ⅳ）と評価の観点の範囲（1～4）

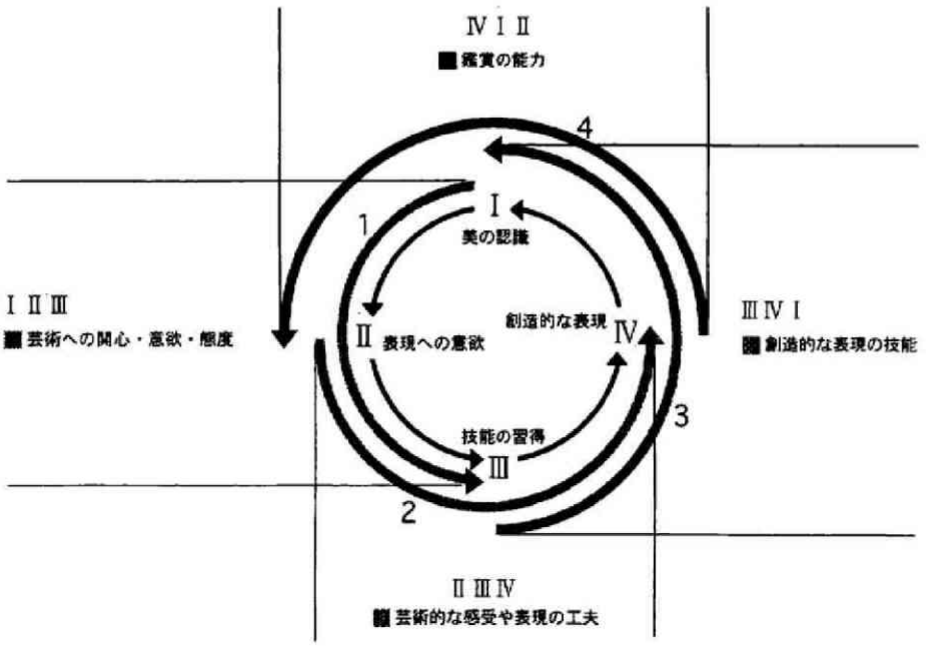
1	「芸術への関心・意欲・態度」は、表現活動の動機づけから、実際の表現活動へと至るプロセスの前半をカバーする。そこで、ⅠからⅡの間に位置付けるとともに、知識、技能を習得したり工夫したりするⅢ段階までを関連付け、Ⅲに至る広い範囲とした。
2	「芸術的な感受と表現の工夫」は、感じ取ることに加えて、表現意図について考え、一つの目標をめざし、表現への意欲を高めるⅡから、知識、技能習得のⅢ、さらにこの表現の工夫は創造的な表現そのものにつながると考え、Ⅳまでとした。
3	「創造的な表現の技能」は知識技能に着目した観点であり、技能の工夫や習得のⅢから創造的な表現を行うⅣ、さらに自他の表現を評価することにより、表現意図やそれぞれの良いところを感じ取り共感することのできる、より高められたⅠへと回帰する。
4	「鑑賞の能力」は、受動的・静的に作品と対面して良さを見て取る力ではなく、より能動的・動的に表現活動に関わるものとして位置付けた。このため、技術を工夫し習得するⅢから、創造的な表現Ⅳを経験し、自己評価することを通して、一段と美への認識力が育ち高められたⅠ、さらに、より高められた表現意欲をもつに至るⅡへと発展する。

(3) 心の育成段階と評価の観点の連環性について

下図において、前述のⅠ～Ⅳの各段階における四つの評価の観点を、どのように関連付けるか示した。

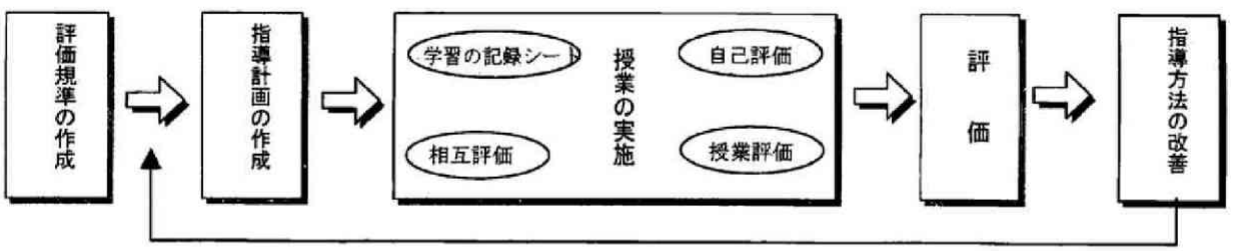
評価は授業における生徒の変容を見取ることであるため、ⅠⅡⅢⅣそれぞれの段階ごとに評価の観点が必要となる。また全ての段階に四つの観点が関わり、その範囲をある程度限定して位置付けることにより、具体的な評価方法を改善していくことが可能になると考えた。

芸術科における心の育成４段階（Ⅰ～Ⅳ）と評価の観点の範囲及び連環性



Ⅲ　生徒による授業評価を授業改善に生かし、心を育てる

生徒による授業評価は、その内容や方法とともに授業の各段階の中での実施時期が大切である。生徒によりⅠ～Ⅳへの進度は必ずしも一様ではない。このため、上記の心を育てる四つのプロセスにおいて予想される生徒の反応、状況等を踏まえた質問を設定することで、適切な時期を逃さず、生徒による授業評価を実施することが大切である。



＊生徒一人一人の心を育む評価になるよう、きめ細かい指導を

Ⅳ　各科目における「生徒一人一人の心を育てる」実践研究事例について

本研究においては、これまでに述べた「心の育成」に関する仮説に基づき、芸術の各科目において、授業改善を通した「生徒の一人一人の心を育てる」ための授業を計画・実践した。

そして、この実践的研究により、都立高等学校における芸術科指導の意義を明確にするとともに、芸術科の指導が生徒のよりよい発達に寄与することを確認し、各学校における授業改善の参考としたい。以下に、各科目における実践的な研究事例を示す。

（音　楽）

題材名　鍵盤楽器（ピアノ）によるアンサンブル（器楽・重奏　２年）

１　題材設定の理由

音楽表現において、アンサンブル活動は、複数の演奏者が一つの表現に向けて、互いの個性と技量を尊重し合い、高め合おうとすることによって、より豊かな音楽表現を目指す活動である。特に、独奏活動に重きを置いてきたピアノ専攻者にとって、他の奏者と合わせる機会は、互いに触発し合うことにより音楽的視野を広げ、より多様で豊かな音楽性を習得するために不可欠な活動と考える。今回は、ピアノ四手、または２台ピアノによるアンサンブルを経験することで、表現を通してコミュニケーション能力を高めることと、表現についての意見を出し合い切磋琢磨することをと通して、生徒の心を育てることをねらい、本題材を設定した。

２　学習目標

(1)　時代様式や作品の背景についての理解を深め、演奏活動に生かす。
(2)　楽曲に対する自己のイメージを明確にして、創造的に表現するための演奏技術を高める。
(3)　生徒相互のコミュニケーション能力を高めながら、音楽活動を展開させる。

３　評価の工夫

(1)　生徒の学習意欲を喚起し、主体的な学習習慣を身に付けて活動させるよう、自己目標を明確にし、到達度を確認できるようにする。
(2)　演奏を仕上げていく過程で生徒同士のコミュニケーションが円滑に行われるよう、演奏を十分聴き合う態度や協調性について評価する。
(3)　学習のまとまりごとに感想や質問をシートに記述させ、教師がアドバイスを記入することにより、生徒と教師の信頼を深め、評価の改善に役立てる。

４　学習活動と評価規準　　①自己評価　②授業評価　③相互評価

学習活動	学習活動の具体的な評価規準		
	関心・意欲・態度	芸術的な感受と表現の工夫	創造的な表現の技能
【導入】（１～２時間） ・できるだけ多くの作品を鑑賞し楽譜に目を通す。 ・選曲 ・パートの決定 ・課題の把握	・個人の技量や特性を生かした選曲をしている。 ・演奏発表を見据えた練習計画を立てる。	学習前アンケート フォーレ作曲　『ドリー組曲』（連弾） サン＝サーンス作曲『死の舞踏』（２台ピアノ）	選曲の理由（主なもの） ・先生がすすめたから ・良い曲だと思ったから ・表現しやすい曲だから ・有名な曲だから
【学習初期】（３時間） ・作品についての理解を深める。 ・作品の背景について調べる。 ・正確な読譜	・目標と到達度の確認 ・表現意欲が高まるような作品へのアプローチを指導する。	評価・アンケート　①　② ・作品についての背景を理解し、作曲家の意図を考えることができる。	・フレージング、アーティキュレーションを正しく読みとり、音楽的な呼吸を意識しながら、演奏できる。
【学習中期】（７時間） ・作品に対するイメージを持ち、表現方法を工夫する。 ・イメージを言葉に表し、伝える。 ・ＣＤ鑑賞：同じ作曲家の作品／オーケストラ等の演奏 ・オーケストレーションを考える。 ・曲想、ペダル、タッチを考えながら演奏する。 ・演奏を録音し、表現方法を検証する。	・メンバー同士の意志疎通が図られ、協力して良い演奏を仕上げようと努力している。 ・学習のつまずきを取り除けるよう具体的な指導をこころがける。 ・生徒同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう配慮する。	・楽曲分析、解釈について意見交換できる。 ・他の音楽観を理解し、作品にふさわしい表現方法を工夫できる。 ・オーケストラ、ピアノの特性を考えて作品にアプローチする。 学習シート・評価　①　②　③	・作品に合わせた演奏方法を模索している。 ・イメージをふくらませ、音色（タッチ）、ペダル、アゴーギグ等を工夫している。

【学習後期】（２時間） ・発表会 ・他の演奏を聴き、評価する。	・演奏会におけるマナーが身についている。 ・自他の演奏を客観的な視点で評価しようと努力している。	・演奏する喜びを共有している。 （アンサンブルの醍醐味を感じることができる。）	・自らの演奏を振り返り、次回の課題を発見する。

評価・アンケート　①　②　③

・アンサンブルを通して、個人の技能や感性が高められているか。

5　生徒による授業評価の導入と授業改善の試み

学習前アンケートを実施し、指導の重点項目を明確にするとともに、生徒自らの学習目標を把握させる。学習のまとまりごとに授業評価を導入することにより、生徒の到達度を把握し、授業改善に役立てた。

【授業評価・アンケートの項目】

①アンサンブルで取り組む曲は何ですか。
②なぜ、その曲を選びましたか。
③取り組むに当たって、目標にすることは何ですか。
④アンサンブルの練習において、メンバー同士で問題点の指摘や、アドバイスをしましたか。
⑤なぜ、そうしましたか。
⑥自分のイメージや考えをメンバーに伝える努力をしましたか。
⑦他者の音楽観を理解しようと努めましたか。
⑧授業を受けて作品についての新たな知識が身に付きましたか。
⑨授業を受けて表現についての新たな技術が身に付きましたか。
⑩授業者のアドバイスは適切でしたか。
⑪アンサンブルの授業に満足していますか。
⑫その理由は何ですか。
⑬アンサンブルの授業に望むことは何ですか。

【学習前アンケート集計結果】

③目標（主なもの）
・パートナーと合わせる　・バランス（音量等）に注意する
・音程、ハーモニーに気を配る　・相手に迷惑をかけない

④メンバー同士で問題点の指摘やアドバイス…
ア）積極的にした　３０％　イ）時々した　５８％
ウ）あまりしなかった　１２％　エ）全くしなかった　０％

⑤アまたはイの理由（主なもの）
・音楽が良くなるから　・話しやすい相手だったから

ウの理由
・何を言えばよいかわからない　・先生のアドバイスがあるから

・生徒同士が意見交換しやすいような環境作りを工夫した。

【学習中期授業評価】

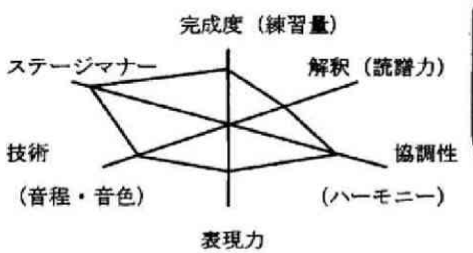
⑪アンサンブルの授業に…
ア）満足している　８５％　イ）あまり満足していない　１５％
ウ）満足していない　０％

⑫アの理由（多数順）
・メンバーと協力できたから　・曲が好きだから　・楽しいから
・十分に指導を受けたから

イの理由
・曲が嫌いだから　・１つのグループで組む期間が長い
・時間が足りない　・専攻の先生のレッスンを受けられないから

⑬授業に望むこと（主なもの）
・発表の持ち時間を長くしてほしい・レッスン時間を長くしてほしい

演奏会における生徒による相互評価（レーダーチャート）



・個別指導、１グループ当たりの指導時間を増やし、きめ細かな指導を心がけた。

6　まとめ

学習前アンケートの実施により、演奏者相互のコミュニケーションは、必ずしも十分には行われていないことが分かった。しかし、学習が進むにつれて、自己のイメージを言語化し伝達することにより、コミュニケーションに必要な能力が高められていくことが分かった。このことから、他者の音楽観を尊重することは、より良い表現方法を探求する上で大切であるばかりでなく、演奏者相互の良好な人間関係を築くことも分かった。また、学習のまとまりごとに行う評価アンケートや学習シートの記述から、教師が生徒の到達度や学習のつまずきを把握し、きめ細かな指導を行うことにつながった。

一方、アンサンブル活動におけるコミュニケーションとは、言葉の伝達にとどまらず、演奏者相互が音楽表現そのものによって音楽の持つ深い内容や意味を感受し、演奏することを通して共有する喜びを味わうことであり、生徒の主体的な表現活動を促すためには、試行錯誤する時間を十分に取ること、音楽の基礎や技能を身につけさせる授業展開の工夫が必要である。そこで教師は、生徒が自らの課題を発見しながら学習を進め、達成感を味わえるよう、授業評価で扱う項目を整理し、授業改善を試みる姿勢が必要である。このような取組みを通して、さらに評価の信頼性を高めることが大切である。

（美　術）

題材名　「私の顔」表情をつけた自刻半面像　塑造　（美術Ⅰ）

1　題材設定の理由

1年次に塑造の魅力に触れ立体を表現していく学習は、多くの造形要素を学ぶとともに、美術全般の学習への理解を深めていく。今回は自刻半面像に表情をつけることによって、量感の学習にユーモアなどを加えられるようにした。

2　学習目標

○塑造による表現のよさや美しさを感じ取り、彫刻表現に関心を持つ。
○自刻半面像の制作を通して、頭部全体の量感を捉え、生命感豊かに表現する力を養う。
○頭部の骨格や比例、動勢、面、量などの造形の要素について理解を深める。

3　評価の工夫

(1)　制作の過程で生徒による授業評価を取り入れ、個々の生徒のつまずきや授業の問題点を把握し、指導の工夫や授業改善に生かしていく。これにより、造る喜びや達成感を味わわせることにより、よりよいものを造ろうとする姿勢を培い、生徒一人一人の心を満たし育んでいく。
(2)　生徒による授業評価を題材の重要な学習段階と題材の終了時に自己評価とともに実施する。
(3)　一回目の授業評価で扱う評価項目は、学習内容の分かりやすさに重点を置き、自由記述の欄でその他の意見を吸収する。
(4)　授業評価一回目実施後の分析と具体的な改善の工夫の考案が大切であり、充分な準備を行う。
(5)　教師がつける生徒の記録表や評価表を活用し、きめ細やかな指導と評価を心がける。

4　学習活動と評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
○説明をよく聞き、理解しようと努力をすることができる。 ○デッサンから塑造制作まで、よりよいものを造ろうと根気強く制作を行うことができる。 ○自他の作品のよさを認め、自らの課題の改善に努力をすることができる。	○表情を工夫するなどユーモアや内面の表現を試みている。 ○自分や他者の作品から工夫やよさを見つけるとともに自作の課題を克服していくことができる。 ○塑造による彫刻表現のよさを感じ取ることができる。	○丸顔や頭部の量感や生命感を豊かに表現することができる。 ○骨格や比例、動勢、面、量などの造形の要素を理解し、表現することができる。

導入　日本やアジアの仏教彫刻の鑑賞と塑造制作の説明を聞く（1時間）
展開　デッサン（3時間）
肉づけ（4時間後）
造形要素の説明と
顔の造作の制作
↓
自他の作品鑑賞と制作（4時間）
↓
完成

生徒による授業評価1回目実施（評定尺度法と自由記述）
⇓　データのまとめと分析
問題点の把握と指導の改善方法の考案
⇓　個々への対応や全体説明の工夫
手立ての実施
⇓
生徒の変化や授業改善
⇓　観察と作品から
自己評価と授業評価2回目
⇓　結果と課題
授業評価導入の検証

心の育成

授業評価表（一枚の用紙に授業評価１回目と２回目、自己評価を記入する。）

塑造「私の顔」―表情をつけた自刻半面像―　　授業評価と自己評価

1年　組　氏名

授業評価１回目　　Aよい　B大体よい　Cよく分からなかった

評　価　項　目	評　価	よかった点、分からなかった点
・仏教彫刻や塑造についての説明は興味が持てたか。	A Ⓑ C	もっと様々な彫刻を知りたい
・骨格や比例・動勢・面・量についての説明は分かりやすかったか。	A Ⓑ C	面のとらえ方など掲示物でよく分かった もっと詳しく説明してほしい
自由意見（上記の項目以外で改善して欲しいところなど）	目の造り方を詳しく教えてほしい	

授業評価２回目

・１回目の授業評価でCをつけた項目（３、４、５のみ）や改善してほしい点は改善されたか。	Ⓐ B C	分かりやすかった

自己評価（作品制作を終えて）　　Aよい　B大体よい　C努力が必要

評　価　項　目	評　価
・説明をよく聞き、内容を理解しようと努力したか。	Ⓐ B C

5　生徒による授業評価の導入と授業改善の試み

(1)　**授業評価１回目のまとめから：**　全体的には大体理解されているようだが、造形の要素の説明や彫刻的な表現の段階でA（よい）が減少し、B（大体よい）の増加がみられた。意見の中には「分かったけれど実際に造るのは難しい」や「さらに詳しく説明して欲しい」などあった。また、順調に制作していると思っていた生徒の中に個別指導を求めている生徒がいることや、説明内容をよく理解していない生徒についても把握することができた。導入の「日本やアジアの仏教彫刻や塑造」についての説明は、仏像に興味が持てない生徒がかなりいるので次回の実施に際しては工夫が必要である。

(2)　**手立ての考案と実施：**　造形要素や顔の造作の制作を分かりやすくするために、拡大した参考作品を用意し、掲示物の図にスタイロフォームで塊感を強調するなど工夫を行い、再度説明をした。また、よく理解できていなかった生徒や説明を求めていた生徒に対し、個別につまずきを取り除く指導を行った。生徒の意見や作品から、特に目の造り方に戸惑いが見られたので、目の周辺から額、頬へのつながりをよく見て造っていく説明を追加した。

(3)　**生徒の変化と授業改善：**　個別の説明を求めていた生徒、よく分からないと書いた生徒のほとんどは、熱心に制作を進め努力する姿が見られた。個別指導を求めていた生徒の中には「最初はつまらないと思っていたけれど、気づいた時には夢中になっていた」と２回目授業評価に感想を書く生徒もいた。一方、自己評価にC（努力が必要）をつける生徒も若干見られ、学習内容の吟味とさらに指導の工夫が必要であることを感じた。

6　まとめ

学習内容の分かりやすさに重点を置き、生徒からの評価や意見を聞くことは、個々への指導の手がかりをつかみ達成感や造る喜びを味わわせるための一つの方策となった。また、生徒の意見に耳を傾ける姿勢は、教師と生徒との信頼関係を形成していくことにもつながり、教室の雰囲気をよりよいものにしていった。一方、学習内容を全員に対し、完全に理解させるための授業改善の手だてや題材そのものに対する生徒の満足度という点に不充分さが残った。生徒が満足し、学習効果も高い授業になるようさらに研修を深め、様々に工夫する必要がある。そして生徒の意見や評価だけではなく、専門性を有する美術教師同士、教員相互の授業参観や評価より、授業改善を進めることが大切である。

（美　術）

題材名　日本の季節感をテーマとした架空小説のブックカバーデザイン（美術Ⅱ）

1　題材設定の理由

美術の授業を通して生徒一人一人の心を育むためには、まず生徒の興味、関心を高めるための適切な題材を設定することが大切である。そこで今回はコンピュータを活用し、技術を習得させることを通して満足度の高い授業をめざすとともに、「生徒による授業評価」などの導入により、生徒一人一人の心を育む指導、評価の達成を目指した。

2　学習目標

(1)　題材を身近なものに設定することにより、興味・関心、制作意欲を高める。
(2)　日本の四季をテーマに題材を考え、感性を高め、自然から学ぶ姿勢を養う。
(3)　コンピュータを活用することで表現の幅を広げ、自ら学び、自ら考える力を一層深める。
(4)　常に個々のつまずきや進度を確認し、生徒一人一人の心を育む授業展開になるよう心がける。

3　評価の工夫

○ 「授業評価」、「個人評価」を見直し、改善を図り、題材設定、指導方法を練り直す。
○ 新たに「学習の記録カード」を作成し、毎授業ごとに点検をし、生徒個々の状況を把握する。
○ 生徒間の「相互評価」を取り入れ、多角的な評価に役立てる。

4　学習活動と評価規準

学習活動	学習活動の具体的評価規準			
	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
〈導入〉3時間 ・ビデオ、スライド鑑賞 ・課題把握 ・参考作品の鑑賞 ・インターネット閲覧 ・書店でのリサーチ ・自然観察	・いろいろなデザインの分野について理解し、興味・関心を抱く。 ・自然観察や他者の作品から刺激を受けたり、インターネットを有効に活用したり、直接書店に行ってリサーチを行うなど、向上心豊かに、前向きに取り組んでいる。	・テーマをしっかり理解し、感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、工夫して、個性豊かに発想しようとしている。	・インターネットから必要な情報を検索するなど、技法を活用して表現する技能を身に付けている。	・美術やデザインについて文化的社会的役割を理解し、その良さや美しさを味わう。 ・参考作品の良さに気づくことができている。 ・自然を観察・鑑賞することで、発想のヒントを得ようとしている。
〈展開〉11時間 ・Illustrator の操作方法を復習 ・PC 独自の操作方法を活かし、画面上でアイデアを具体化していく。 ・出来上がったものをプリント、カットし、各自が持ち寄った文庫本に付ける。	＊題材をより身近なものに設定し、自然から学ぶ姿勢を継続させた。 ・ディスプレイ上で試行錯誤し、構成、色彩等を追究し、納得するまで何度もやり直し、更に複数のものの中からより良いものを選び出そうとする前向きな姿勢がある。	・主題に沿った画面構成を考えることができる ・我が国の特徴的な色彩の探究等に対する研究心が旺盛である ・季節感の漂う架空の小説を設定し、独自のタイトルや簡単なあらすじを考えている。 ＊鑑賞の時間を十分に設け、「相互評価」を取り入れ、発表の場を充実させた。	・タイトルと絵柄の雰囲気が共通したものになるようにデザインしている。 ・フォントの種類、大きさを考えたり、ロゴを工夫する等、基礎・基本作業ができる。 ・マークやバーコード等も工夫して作成する等、細かい作業にこだわりがある。 ・最終的なレイアウト、色調を再確認するなど、PC 独自の操作方法を習得している。	＊「学習の記録カード」を取り入れ、個々の進度を的確に把握し、つまずきを取り除けるよう、きめ細かな個別指導を心がけた。
〈まとめ〉2時間 ・各自出来上がった文庫本や作品の過程をディスプレイ上で説明	・自分の考えやデザインの魅力を相手に分かりやすく説得力を持って伝えようとしている。			・他者の作品の良さに気づこうとしているか、気づくことができたか（相互評価）

5　生徒による授業評価の導入と授業改善の試み

授業をより多角的に検証し、評価に役立てるために「授業評価」だけでなく、「学習の記録カード」、生徒間の「相互評価」、生徒自身の「個人評価」を導入。

＊授業の課題、改善点として、特に個々の生徒の状況把握が十分に出来ていないことが課題であったため、よりきめ細かな指導方法、授業改善の手立てとして、今回から導入した用紙。

「学習の記録カード」

年　組　氏名

月日	授業内容	授業の状況	備考
9/2	鑑賞 企画、構想	(順調・やや課題あり・課題あり) ・……	……
9/9	企画、構想 PC 操作	(順調・やや課題あり・課題あり) ・…… ……	

「相互評価」

年　組　氏名

作品について…工夫していると思うところは？

……

Bさんの作品について…工夫

「個人評価」（2 回目）

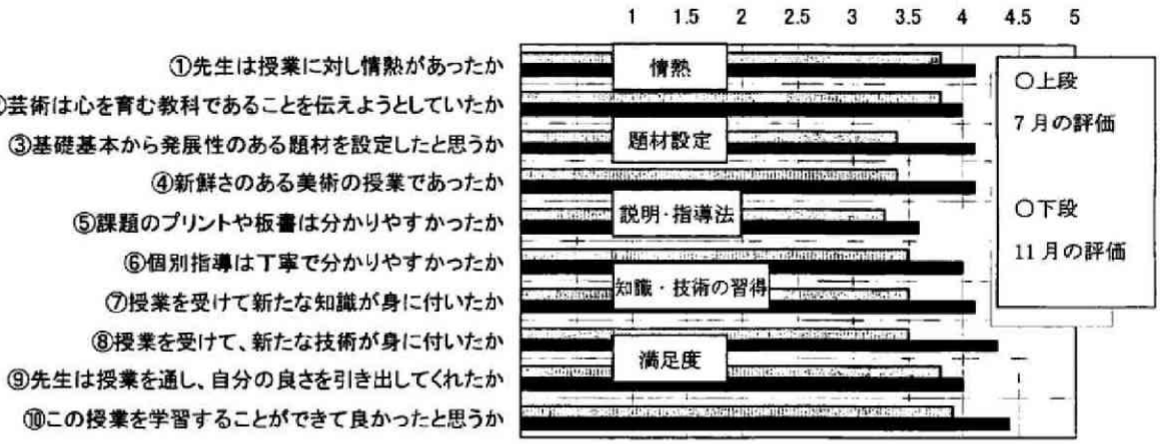
	観点	自己評価質問項目	平均
①	イ	いろいろなデザインの分野について興味を持つようになりましたか	3.8
②	イ	日本の四季や伝統行事、日本独自の色彩に興味を持つようになりましたか	3.9
③	ロ	新しい用語について理解できましたか	3.7
④	ロ	十分時間をかけ制作の準備をしましたか	3.6
⑤	ロ	表現を工夫したり、時間を忘れて集中することが何度もありましたか	4.3
⑥	ロ	この授業に積極的に取り組むことで、心が豊かになったと思いますか	4.0
⑦	ハ	テーマに沿い、創造的な作品を制作しましたか	3.8
⑧	ハ	PC 操作に慣れ、PC 独自の描画方法が身に付きましたか	4.2
⑨	ハ	PC を駆使し、やり直しを含めより良いものを何度も追究しましたか	3.6
⑩	ニ	自分や他者の作品の良さに気づくことができましたか	4.2

＊生徒個人評価の観点はイ（関心・意欲態度）、ロ（芸術的な感受や表現の工夫）
ハ（創造的な表現の技能）、ニ（鑑賞の能力）

生徒による「授業評価」（1 回目、2 回目の比較）

	観点	授業評価質問項目	平均	
①	情熱	先生は授業に対し情熱がありましたか	3.8	4.1
②		芸術は心を育む教科であることを、熱意を持って伝えようとしていましたか	3.8	4.0
③	題材設定	基礎基本から発展性のある題材を設定したと思いますか	3.4	4.1
④		新鮮さのある美術の授業でしたか	3.4	4.1
⑤	説明指導法	課題のプリントや板書は分かりやすかったですか	3.3	3.6
⑥		個別指導は丁寧で分かりやすかったですか	3.5	4.0
⑦	知識・技術の習得	授業を受けて新たな知識が身に付きましたか	3.5	4.1
⑧		授業を受けて新たな技術が身に付きましたか	3.4	4.3
⑨	満足度	先生は授業を通し、自分の良さを引き出してくれたと思いますか	3.8	4.0
⑩		この授業を学習することができて良かったと思いますか	3.9	4.4

【生徒による授業評価】（7 月と 11 月との比較）



6　まとめ

今回の研究を通して、自己評価や授業評価は、より充実した授業を作り上げていくために非常に有効であることが分かった。特に学習の記録カードは、生徒のつまずきを授業ごとに把握でき、効果があることがわかった。「生徒による授業評価」は 7 月と 11 月の結果を比較して、生徒の満足度の変化等からも明らかなように、常に多角的に授業改善を試みるきめ細かな指導が、生徒一人一人の心を育むことにつながっていくことがわかった。今後は指導方法の更なる改善を図るとともに外部評価なども取り入れることにより、生徒の心を育てる指導の実現を図りたい。

（書　道）

題材名　色紙制作（漢字仮名交じりの書による創作）（書道Ⅱ）

1　題材設定の理由

以前から実用的な文書としては、漢字仮名交じりの書が広く用いられてきた。しかし、書道作品としては、江戸時代までの表現としては少なかったものの、明治時代以降増加してきた経緯がある。さらに新学習指導要領において指導事項に位置付けられたことをふまえ、この書の学習にあたり、高校生の詩を鑑賞させ、その中から共感したものを漢字仮名交じりの書で色紙に表現させることを通して、心を育むことを目指した。

2　学習目標

(1)　色紙の書式と表現法について理解させる。
(2)　漢字仮名交じりの書による創作の方法を理解させる。
(3)　表現する書風と用具、用材の選択について理解させる。
(4)　詩の内容の理解と表現の工夫を通して達成感を味わえるようにする。

3　評価の工夫

平成４年より書道の授業において、生徒による授業評価を取り入れ、授業の問題点、生徒の要望を把握し、指導の工夫や授業改善に生かしてきた。以下にその成果と課題を示す。

(1)　平成11年度においては、以下のような評価項目により授業評価を行った。

ア　授業の難易度について　良い73%　難しい19%　易しい8%
イ　授業の進行速度について　良い89%　速過ぎる3%　遅い8%
ウ　授業の満足度について　とても満足43%　満足43%　普通11%　その他3%
エ　良かったことについて　生活に張りができた30%　親しく学べた28%　リフレッシュできた13%　資格の取得13%
オ　要　望　継続して学びたい。同一講座やレベルアップした講座、その他の内容の講座の希望者の合計で、90%以上を占めており、多くの人が今後の継続学習を希望している。

(2)　今後の評価の工夫として、上記の評価結果をふまえ、授業改善のために、以下の項目についても一層改善していく必要がある。

ア　信頼性　平等な指導。約束を守り、常に態度が一貫している。
イ　独創性　創意工夫のある授業
ウ　合理性　無駄のない授業
エ　積極性　情報の豊富な授業。適切なアドバイスのある授業
オ　理解しやすい授業　板書の書き方、添削の仕方、説明等の工夫

4　学習活動と評価規準

学習活動	学習活動の具体的評価規準			
	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
〈導入〉 2時間 ○詩の鑑賞 ○表現したい詩の撰文	○詩に関心をもち、意欲的に表現しようとする。 ○運筆、用筆に注意をして書いている。	○詩を理解し、表現の工夫が十分できている。 ○運筆、用筆を工夫して書いている。	○詩の感動を、書作品に適切に表現できている。 ○起筆の角度、運筆の速度、収筆力がバランスよく表現できている。	○詩の内容を把握し、共感し、そのよさを深く味わっている。 ○運筆、用筆美を理解している。
○半紙による草稿の制作	○文字の大きさに注意をして書いている。	○文字の大きさの違いを考えて書いている。	○漢字と漢字の大きさでは、画数の少ない漢字は、小さめに書いている。	○線質美を理解している。
〈展開〉 12時間 ○半紙による表現練習	○字間の取り方に注意をして書いている。	○文字と文字との間を工夫して書いている。	○漢字と仮名の大きさでは、漢字は大きく、ひらがなは小さく書いている。	○表現の方法を変えることによって印象が異なることを理解している。
◎生徒による授業評価	○行間の取り方に注意をして書いている。	○文字の幅、大きさによって行間を工夫して書いている。	○文字と文字との間をバランスを考えて書いている。	○いろいろな行間の美を理解している。
○部分練習	○余白の取り方に注意をして書いている。	○上下、左右、中の余白を工夫して書いている。	○文字と文字との幅、大きさのバランスを考えて書いている。	○配列の美、白色と黒色の調和美を理解している。
○練習用色紙で作品製作	○線の細太に注意をして書いている。	○線の細い、太い線を工夫して書いている。	○天地、左右、中の余白を白と黒の調和を考えて書いている。	○太い線の温かみのある落ちついた重量感を味わっている。
	○直線と曲線を、注意して書いている。	○直線と曲線を工夫して書いている。	○始筆の位置に注意して書いている。	○細い線のやさしい感じを味わっている。
○生徒による相互評価	○気脈に注意をして書いている。	○一画と一画のつながりを大事に書いている。	○太い線と細い線を調和させ、メリハリのある表現をしている。 ○直線と曲線の調和を考えて書いている。	○直線の鋭敏さ、曲線のやわらかさを理解している。 ○均衡の美を理解している。
〈まとめ〉 4時間 ○大色紙に清書し、作品を完成させる。	○リズムに注意をして書いている。	○一画の線のリズム、一字の線のリズムを工夫して書いている。	○大きい曲線と、小さい曲線を区別して表現している。	○気脈の美しさ（流動美）を理解している。
	○散らし書きを注意して書いている。	○行間の余白、天地の余白を工夫して書いている。	○文字と文字の流れを把握し、作品をまとめている。 ○迫力のある、又は軽やかな、リズミカルな線で作品を完成させている。	○リズムのある線の美しさ、魅力を理解している。
◎生徒による授業評価			○へんとつくりの譲り合い、字と字の譲り合いをベースに書いている。	○散らし書きの余白の美、線質の美、構成の美を理解している。
○作品鑑賞会 ○生徒による自己評価と相互評価	○墨色に注意をして書いている。	○墨継ぎを工夫して書いている。	○構成の美を考えて作品をまとめている。 ○濃淡の変化を生かした表現ができている。 ○潤渇の変化を生かした表現ができる。	○濃淡の美を理解している。 ○墨色の美を理解している。

5　生徒による授業評価の導入と授業改善の試み

授業展開の中で、早い時期に第一回目の生徒による授業評価を実施することにより、授業指導に対する信頼性、独創性、合理性、積極性、理解しやすさなどについて、生徒の気持ちをつかむようにすることが必要である。さらに、第一回目の生徒による授業評価の結果をふまえ、題材の指導目標を再確認するとともに、生徒にとって分かりやすく、興味関心の強まる指導のために、授業改善を行うことが大切であることが分かった。

6　まとめ

生徒による授業評価の導入により、生徒の理解度、満足度等を的確に把握し、授業改善につなげる取組みを通して、生徒一人一人の気持ちを理解し、その心を育てる指導をねらった。生徒の中には「継続して学びたい」という要望を寄せるものも多く、学習指導要領の芸術の目標のように、『生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。』ために、今後さらに、生徒による授業評価の結果を、授業の改善や工夫に直結させることで、より一層、生徒の心を育てる書道教育の充実を図っていきたい。